

## 馬の飼養衛生管理基準の概要について

令和3年12月15日

令和3年度馬飼養衛生管理技術地方講習会

愛知県農業水産局畜産課

## 伝染性疾病の発生予防に向けて

大事な馬を伝染性疾病から守るためにどうしたらよいか？



家畜の伝染性疾病の発生予防・まん延防止のため、**所有者が遵守すべき事項**として家畜伝染病予防法に「**飼養衛生管理基準**」が定められています。

3

## 近年の馬の伝染性疾病について

### ・馬インフルエンザ

2007年8月に発生があり、馬の移動制限、8、9月の競馬開催が中止となった。

### ・馬鼻肺炎

近年、国内で継続的に発生（30頭前後/年）。

感染経路は飛沫感染と、人や器具を介した接触感染。

### ・アフリカ馬疫

常在地は、アフリカ大陸のサハラ砂漠以南に限られるが、吸血昆虫や感染動物の移動などにより、地中海沿岸、スペインやポルトガルでも流行したことがある。2020年にタイでも発生が確認されている。日本での発生はない。

etc

2

## 飼養衛生管理基準とは

### 【対象となる家畜】

牛、水牛、鹿、**馬**、めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥

### 【分類】

おおきく以下の4つに分類

- I 家畜の飼養に係る衛生管理の基本的な事項
- II 衛生管理区域への病原体の侵入防止（持ち込まない）
- III 衛生管理区域内の病原体の汚染拡大防止（拡げない）
- IV 衛生管理区域外への病原体拡散防止（持ち出さない）

### 【遵守項目】

I～IVにそれぞれ、詳細な内容が示されている。  
馬では遵守内容が28項目ある。

4

# 乗用馬の日常管理とデンタルケア

JRA馬事公苑  
宮田健二

## デンタルケア

17

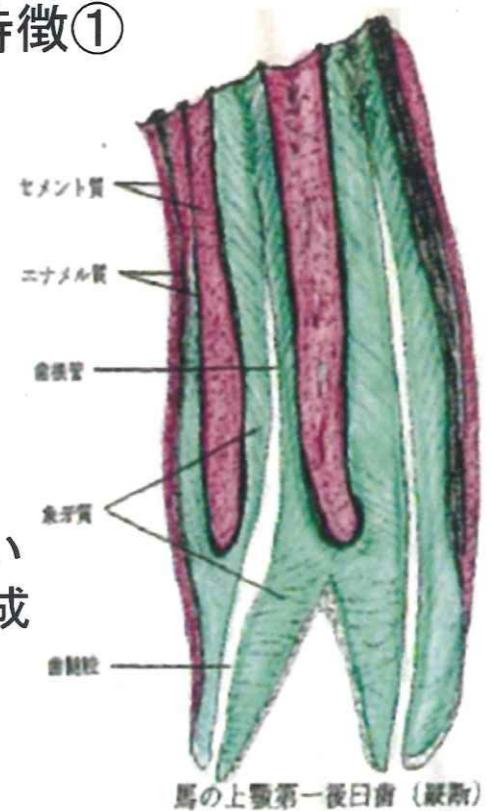
## 飼養衛生管理基準

2

### デンタルケア 馬の歯の特徴①

- ・歯を構成する3種類の無機質

**エナメル質(enamel) :**  
生体内で最も硬い  
細胞ではないため再生されない  
**セメント質(cement) :**  
歯の石灰化組織では最も柔らかい  
歯槽骨に面する歯の最外層を形成  
**象牙質(dentin) :**  
歯髄腔を囲む歯の主成分  
生涯にわたって產生される



18

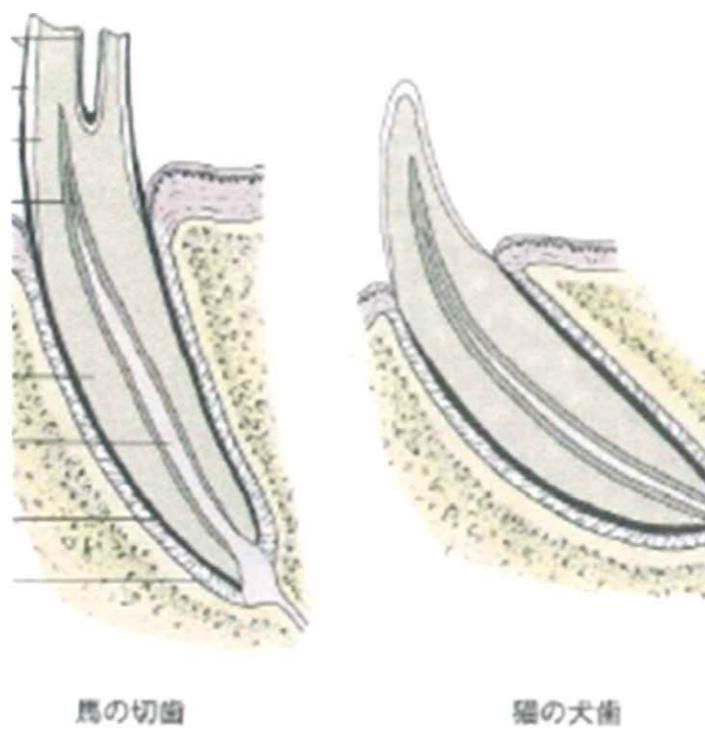
## デンタルケア 馬の歯の特徴②

### 長冠歯:馬

長い歯冠を持つ。  
最初は歯冠の大部分  
が隠れており、摩滅  
を補うために徐々に  
萌出してくる。

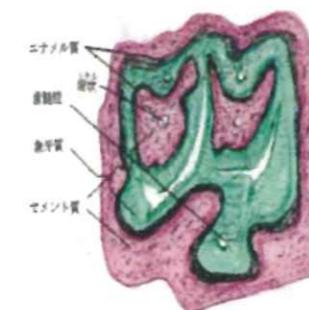
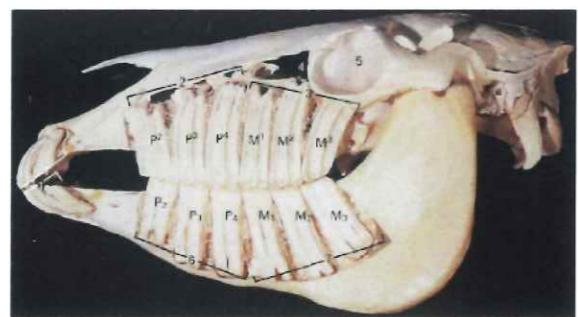
### 短冠歯:猫

歯冠をエナメル質が  
完全に覆う。成熟前  
に完全に萌出し、生  
涯を全うできる長さ  
と硬さがある。



## デンタルケア 馬の歯の特徴③

- 長い歯根(6~8cm)を持つ長冠歯である
- 1年に2~3mm萌出する
- エナメルレヒダが発達している
- 咬合面がエナメル質で均一に覆われていない  
⇒咬合面に凹凸を形成→草の咀嚼に有利。



20

## デンタルケア 馬の歯の特徴:脱換・萌出時期

- 誕生時 第1切歯(4本)と前臼歯(12本)
- 生後6~8ヶ月 第2、3切歯萌出
- 生後4~7ヶ月 狼歯(P1)萌出
- 1歳 第1後臼歯萌出
- 2歳 第2後臼歯萌出
- 2歳半 第1切歯、第2前臼歯脱換
- 3歳 第3前臼歯脱換
- 3歳~3歳半 第2切歯脱換、第4前臼歯脱換
- 4歳半 第3後臼歯萌出
- 4歳半~5歳 第3切歯脱換
- 犬歯萌出

29

## デンタルケア 歯牙疾患:原因

- 飼養環境や食餌内容
  - 野生では1日約18時間咀嚼→自然に摩滅
  - 使役馬は濃厚飼料を給餌→水平方向の咀嚼が減少  
(乾草1kgで3000回咀嚼:30分あれば完食)
- 不正咬合(咬み合わせの異常)
- 脱換の異常(時期の異常、不正脱換)
- 加齢による変形、脱落歯

30

# 令和3年度 馬感染症研究会

西部家畜保健衛生所尾張支所 柄植亜衣子

1

期 間 : 令和3年10月27日～29日

場 所 : 日本中央競馬会競走馬総合研究所  
栃木県下野市柴1400-4

参考機関: 家畜保健衛生所、動物検疫所



## 施設の概要



3

## 研修内容②

- 保定方法、個体識別方法、検体採取方法
- 細菌感染症
- 原虫・寄生虫感染症
- 病理解剖
- ウイルス感染症
- 公演「近年の国際重要伝染病の発生動向」  
動衛研越境性家畜感染症研究領域

山川 瞳

5

## 研修内容①

- わが国における馬の防疫体制

### 1) 馬の防疫と馬防疫検討会の役割

○2020オリンピック馬術競技大会出場予定馬での馬ピロプラズマ症発生事例

- ・ベラルーシ産の馬でドイツにおける7日間出国前検疫を受けてから来日、到着後3日に発熱と貧血を示し、伝貧とピロプラズマ症を疑って血液塗抹とPCRで確定。国内での発生ではなく検疫段階での摘発であるため、殺処分はされずに帰国、予後良好。
- ・競走馬総合研究所にいるユニバーサルドナー馬から輸血用血液を7Lほど提供した。
- ・潜伏期間12~19日なので日本到着前に感染したと考えられる。
- ・日本に媒介するダニは生息していないので国内の馬への伝播リスクなしと判断できる。

### 2) 軽種馬の防疫とJRAの役割

### 3) 国内外における馬の防疫体制

### 4) 馬の輸出入検疫状況

### 5) 馬用の生物学的製剤の製造状況等

4

## 保定方法、個体識別方法、 検体採取方法

### 《実習》

#### 馬の個体識別

- ・手帳の馬体図を見ながら個体識別項目(毛色、白斑、旋毛等)を確認

保定...肩とり、脇とり、鼻とり、鼻捻子、耳とり

聴診...心音、腸蠕動音

頸静脈採血

鼻咽頭スワブ採取(鎮静処理後に実施)

馬伝染性子宮炎(CEM)検査

6